

無息人名替・相續・病死・養子に洩越候節、人々入門いたし居申諸師範人の致案内云々。』とある。有祿人は當主と部屋住とに拘らず、藩から知行・扶持・切米を受けるもの、惣稱である。

ウロコバン 鱗橋 金澤玄蕃川と倉月用水との落合に架けた橋である。澄濁橋とも雅名した。之は玄蕃川の清潔なる水と、倉月用水の濁水とが橋下で落合ふから生じた名で、手取川上流の濁澄橋に倣うた名であらう。

ウロコマチ 鱗町 金澤川荒町の上で、倉月用水の川縁から百姓町への往來にある片原町の町家呼んだが、明治四年四月町名改革の時より荒町をも合併して鱗町と稱することになった。

ウエキバナ 植木鼻 ウエキ 鹿島郡能登島なる南部藩の北方に突出した岬。
ウエツケケンブン 植付見分 ↓カイヤク
ブギョウカイソン 改作奉行廻村。
ウエモノカタブギョウ 植物方奉行 大聖寺藩にて、林叢の疎密を測り補植することを掌る職を植物方奉行というた。松奉行の兼務で、文化七年に始つた。

ウライチバ 魚市場 金澤の魚市場は、淺野川口では初め袋町に在つたのを、後に近江町に移し、犀川方面では堅町の入口なる魚屋町に在つたのを、後に近江町に合併した。袋町の魚市場は最も古く、藩初以來この地の新保屋次郎左衛門が、藩侯所用の魚介を取扱つたことから起るといはれ、前田利常の世には市場の開設を許された。それが近江町に移つたのは、袋町が北陸街道に當つて不便が多かつたから、元禄三年三月の火災以後移したの

であらうかと思はれる。魚屋町の創始は詳かでないが、之と同時の火災に焼けた後、一たび復興せられたのであつた。享保六年にもまだ近江町・魚屋町の兩市場があつたが、その久しからざる後に合併して近江町のみとなつたやうに思はれる。その後安永七年舊魚屋町のあたりに再び市場が起つたが、能く永續することを得なかつた。

ウヲガヘリ 魚歸 河北郡湯涌郷に屬する部寮。

ウヲズミドウセン 魚住道仙 金澤の町醫者であつたが、藩用をも勤めて居屋敷を拜領した。享保八年五月朝日大聖寺侯前田利章の御醫師に召出されてその地に引越し、養子道微が跡屋敷に居住して療治に従つた。

ウヲズミドウテツ 魚住道徹 道仙の子。金澤に醫を業として、元文元年十一月廿四日歿した。次代道仙を経て、三代道徹は安永九年御醫師として召出され、二十人扶持を受け、天明六年十人扶持を加へ、寛政二年歿した。子孫道仙・道徹・恭庵・良意等相繼ぐ。

ウヲズミハヤト 魚住隼人 天正十三年九月十一日秀吉より利家へ賜はる書中に「貴殿舎兄前田藏人入道、現は魚住隼人、此の者共昔より存する仁に候。此の兩人未森・蓮間の時金澤城代被置候處に、神妙の体閑及候。老ての武遊と感じ申。」とあるものは是である。此の魚住の後胤は明らかでない。元和の土籍に二百石魚住與右衛門、又は軍兵衛と見えるのは族人であらうといはれる。

ウヲツウマハリ 魚津馬廻 魚津御馬廻は越中魚津に在住する御馬廻の士であるが、その初は知られぬ。萬治三年富山在住の士が

金澤に移つた時、その内近藤市左衛門・荒尾平左衛門・馬場嘉左衛門は魚津に移つたとある。後世は七人であつた。

ウヲツザイジユウ 魚津在佐 寛永四年大普主馬好次初めて新川郡魚津に在任を命ぜられ、魚津町及び御郡の事を支配した。十三年好次死して子主馬好政之に代り、十五年金澤に歸り、十七年本保嘉右衛門命ぜられて町奉行兼郡代となる。或は郡代兼町奉行であつたともいふ。嘉右衛門萬治三年御免、同年八月十一日仙石勝左衛門政盛が命ぜられ、此の時から魚津町奉行は別に命ぜられた。後元祿十年四月十一日永原治兵衛政張の命ぜられたのは頭分から勤めた初で、御役料二百石を賜ひ、與力五人、足輕四十五人御預け、内手替五人と小者五人は自分に下された。これ後世の格であり、延享三年正月松平大膳康濟が任ぜられてから、人持・頭分入交り勤めることになつた。但し人持には御役料並びに足輕等を興へられぬ。

ウヲツジヨウ 魚津城 越中新川郡にあつた。古く小津の字をも用ひ、その魚津に一定したのは、明暦中前田利常の命によると言はれる。この城は建武中、宮方に歸した椎名孫八入道の初めて築いた所であると傳へられ、天正六年以降上杉景勝の有に歸したが、十年織田信長の將柴田勝家の爲に陥れられ、次いで佐々成政の據る所となつた。十五年成政肥後に移され、新川郡は前田利家が豊臣秀吉の命により治する所となつたので、青山佐渡守吉次・稻垣與三右衛門を置いて守らせ、慶長十五年三月富山城権兵衛の後に、利長移つて暫し之に居つた。既にして九月利長の高岡に

移るや、吉次再び之を守り、十七年吉次歿して子豊後長次之に代り、長次は元和元年に逝いて子豊後正次城代となつたが、後魚津城を廢し、正次を金澤に歸らしめた。蓋し正次の死は元和七年であるから、その廢城は元和元年より七年に至る間であつたのである。

ウヲツマチブギョウ 魚津町奉行 寛永十七年本保嘉右衛門に命ぜられたを初とし、郡代を兼ねてゐた。次いで萬治三年町奉行事務として岡田十右衛門、寛文四年近藤新左衛門が命ぜられ、同八年松崎十右衛門近藤に代り、十年岡田の御先手頭となるまで兩人役であつたが、その後全く一人役となつた。

ウヲトヒヤ 魚問屋 金澤では藩政中近海宮腰を初め、上口は本吉・相河・安宅、下口は大野・栗崎・根布・荒屋・高松及び能登の七尾・輪島等浦々、越中の氷見・放生津・岩瀬・魚津から日々運送する魚鳥を問屋で引受け、城下の魚商人に引渡した。魚商人の金主となるものを荷宿といつて、富裕の町人数名之に當つてゐた。

ウヲドメダキ 魚留瀧 石川郡曲の地内で、淺野川の上流に在る。瀧の高さ一・一米。
ウヲノジ 魚ノ地 四至郡山田郷に屬する部寮。明治八年十月に至り、宮ノ谷と合併して宮地と改稱した。

ウヲヤマチ 魚屋町 金澤の舊町名。片町から堅町へ入る四辻より、河原町入口までを稱したもので、初め此の地に魚市場を建てたための名稱であつたが、享保の末頃市場を廢し、河原町の内に歸して魚屋町の名が絶えた。文政四年以後また龜澤町と名付けたが、明治四年四月町名改革の時、再び堅町へ合併